

# 光明寺だより

## 第84号

浄土真宗本願寺派  
光明寺

〒793-0030 西条市大町550

TEL 0897-53-4583



心に残る詩

味

岡山市 岩藤由美子 (60)



思うように  
 ならなくて  
 しょんぼりしたり  
 がっかりしたり  
 するけれど  
 それこそが  
 心を育てるのだと  
 気づいた  
 気づくまでに  
 何十年も  
 かかったが  
 その年数も  
 深い味がする



産経新聞「朝の詩」より

## 新春記念法座

1月9日(木)

午後4時



【講師】元・本願寺伝道部長  
藤田徹文先生

# 一口法話



にぢにぢ(れ)こうじ  
日日是好日

ふっても てっても

日日是好日

泣いても わらっても

きょうが一番いい日

私の一生の中の

大事な一日だから

右の詩は、相田みつおさんの「日日是好日」と題した詩です。

「日日是好日」とは、雲門禅師の言葉で、「その日その日が自分にとって最高に好い日である」という意味です。時折、床の間などにこの字の書かれた書を見かけることがありますので、ご存知の方もあろうかと思えます。

相田みつおさんはこの詩に寄せて次のようなことをおっしゃっています。(要約)

……人間の考え方、人間の思いというのは、いつでも自分中心です。好い日、悪い日といっても、それはどこまでも、自分にとって都合の好い日であり、自分にとって都合の悪い日なんです。

たとえば、雨具屋さんにとっては、雨の日は好い日であり、夏の氷屋さんにとっては、雨の日は悪い日になります。このように、広い世界には、雨で困る人もいれば、雨で助かる人もいます。

『日日是好日』の本来の意味は、そんな自分中心の「モノサシ」とは全く関係ない話です。

雲門禅師のいう好日とは、好い日、悪い日という比べっこをやめた話なんです。つまり、好悪を越えた話です。自分の都合という「モノサシ」を捨てた時の話です。

自分にとって、どんなに都合の悪いことが起きても、そのことを、どう受け止めていくかということが一番大事なことだと思います。

自分の都合、自分の損得勘定の「モノサシ」を離れて、あるがままに受け止めていく、つまり、貴重な体験、貴重な反省の機会として受け止められたら、悪い日がそのまま、好い日に転換するのではないのでしょうか？

たとえば、病気をしたおかげで健康のありがたさが身にしみてわかるようなものです。

病気の時を、健康の時と比べたらばそれは悪い日になりますが、病気の時は病気を、

いのちいっぱい生きる。病気と自分といっしょに生きる。それが病気から解放される妙法だというわけです。

それが日日是好日ということですよ。

そして、おかしい時には腹の底から笑い、泣きたい時には手放して泣く―それが日日好日の生き方だと思えます……

・・・・・・・・・・・・・・・・

相田みつおさんは、自分中心の「モノサシ」を捨て、いかなる災難をも貴重なご縁として受け止めていく、それが「日日是好日」の生き方だと仰っています。

まことに見事な生き方です。ただ、こうした生き方には強い精神力と確かな智慧が求められます。

果たしてこの私はどうでしょうか。

何か災難が起きると「なんで私だけが、こんな苦しい目にあわねばならんのじゃ」と、腹を立て愚痴をこぼし、挙句の果ては「あれが悪いからじゃ、これのせいじゃ」と周りに責任を転嫁してしまう、まことにお粗末至極な生き方しかできていません。

そんな我が身を思えば、「日日是好日」は立派な生き方とは思いますが、到底私にはかなわぬ生き方であります。

ところがです。

お念仏の教えに出遭った人々の生き方を

見てみますと、本当にごく自然に（無理にそのようにしようとするのではなく）、日日是好日に近い生き方をしているのです。

たとえば、念仏詩人・竹部勝之進さんは「天下泰平」と題した次のような詩を残しています。

フツテヨシ  
ハレテヨシ  
ナクテヨシ  
アツテヨシ  
イキテヨシ  
シンデヨシ



都合のいいこと悪いこと、何が来ても「どちらもよし」という絶対肯定の生き方をしております。

或いは妙好人（篤信の念仏者）足利源左さんは、悲しいことや苦しいことに出遭っても、「ようこそ、ようこそ」と一切を受け入れ、お念仏を喜ぶご縁に転じていかれました。

お二人の生き方を見ますと、「日日是好日」に相通じる生き方をしていることがよく分かります。

なぜそのような生き方が出来るようになるのでしょうか？

それは、「私を支えて下さるもの」に出遭うからです。

そのお方こそ、阿弥陀如来と申し上げる

仏さまなのです。

阿弥陀さまは、自分中心の「モノサシ」を捨てることも、愚痴や腹をたてることもやめられない私たちの愚かな姿を見抜かれて、「だからこそ救わずにはおれないんだよ」と真如（一如・真実）の世界から私のところへお念仏となってやって来られた仏さまです。

お念仏（南無阿弥陀仏）は、阿弥陀さまの呼び声です。

「我にまかせよ、必ず救う」「どうかいただいた『いのち』を無駄にせず、かけがえない『今』を精一杯生きなさい」と呼んで下さっているのです。

その呼び声に励まされ、勇気づけられて念仏者はこの人生を歩んでいくのです。

私を支えて下さる方がいる。

私のことを知り尽くして下さい方がいる。

このことが、苦しみ多いこの人生を歩む私たちに、計り知れない安らぎと生きる勇氣を与えて下さるのです。

念仏者・榎本栄一氏は次のような詩を残しています。

―あるく―

私を見て下下さる人がある

私を照らして下さる人がある

私はくじけずに こんにちをあるく

無明の闇に沈む我が身を照らし、「まかせよ救う」と仰って下さる阿弥陀さまのご本願のハタラクキをはっきりと知った人の法悦の詩です。

さらには、妙好人として名高い、六連島むつれじま（下関市の沖合の島）のお軽同行は、

重荷背負うて山坂すれど

ご恩思えば苦にならぬ

という歌を残しています。

愚かなこの私を救いとして下さる阿弥陀さまのご恩を思えば、この人生に出遭う苦しみなどは全く苦にならないというのです。

苦がなくなるのではないのです。苦にならなくなるのです。

これがお念仏の教えに出遭った方々の人生です。まさに日日好日の人生です。

煩惱にまみれた私たちがお念仏のみ教えに出遭うことで、かくも見事な人生に転じられていくのです。

今、あらためて、そのみ教えに出遭うご縁を頂いたことに、深い慶びを覚えるばかりであります。



## 「彼岸会法座」つとまる！



さる9月28日、ご講師に季平博昭師（備後教区・法光寺住職）をお迎えし、秋の彼岸会法座が勤まりました。

今年のお話は、浄土真宗生活信条第2章「み仏の光りをあおぎ、つねにわが身をかえりみて感謝のうちに励みます」についてお話をいただきました。

### 【講演主旨】

み仏の光りはわが身をありのままに照らし出します。その光りを仰ぐことによって、煩惱具足の凡夫

と呼ばれるように、救われ難いお粗末なわが身が知らされます。知らされれば当然そこに深い反省の心（慚愧）が生まれてきます。

しかしそこで大事なことは「どうせお粗末な凡夫なんだから、、、」と、そこに<sup>あぐら</sup>胡坐をかいてしまい、自らを高めていこう、仏（目覚めた人）に近づいていこうという努力を怠ることで。もちろんいくら精進努力を重ねても悟りを開くところなどは出来ませんが、やがて仏にさせていただくことのありがたさを思えば、少しでも仏（目覚めた人）に近づくように常に励むことが大事なことです。



開けよう心の目を！

## 「第24回仏教定期講演会」開催！



さる10月28日（木）、第24回仏教定期講演会（主催：西条仏教青年会）が、光明寺本堂で行われました。ご講師の野田大燈師（曹洞宗）は29歳の時、脱サラをして、無一文から寺院（報四恩精舎）を建立され、ご縁ある人々の協力も得て財団法人喝破道場、社会福祉法人四恩の里を立ち上げ、引きこもり、落ちこぼれの児童を預かり、その自立支援活動を精力的に続けておられます。これらの活動は国の「絆再生事業」として認可されているとのこと。この事業に長

年取り組んできた体験から、「人は変わります」と断言されていました。

講演の内容は多岐にわたり、忘己利他（己を無にして相手の幸せを願う）の心や、平常心（呼吸を整え、冷静な判断をしていく）が娑婆世界（思い通りにならない世界）を歩む私たちにとって大事なことであるといったお話をしていただきました。

道を求めて脱サラされ、僧侶としてさまざまな社会活動を続けておられる師には、僧侶の本来あるべき姿を教えていただいたように思います。当日は夜の講演で寒さも少し厳しくなったにもかかわらず、50名の聴聞者がありました。

## 平成26年度行事予定表



日時	行事名	講師
1月9日(木)午後4時	新春記念法座	備後教区光徳寺前住・藤田徹文師
1月16日(木)	正月参拝	
2月25日(火)午後1時	愛媛県仏教婦人研修大会	ちひろ(歌手・作曲家)
3月15日(土)午前9時	涅槃会	
3月22日(土)午後2時	彼岸会法座	大阪教区法栄寺前住・小林顯英師
5月21日(水)	住職継職法要	
8月13日(水)14日(木)	新盆合同追悼法要	
8月16日(土)	お盆参拝	
9月27日(土)午後2時	彼岸会法座	備後教区法光寺住職・季平博昭師
11月28日(金)午後2時	報恩講	当山住職
12月31日(水)	除夜会・元旦会	

★行事の追加、変更があれば本紙にてお知らせいたします。

## 「報恩講」開催！



11月28日『報恩講』が行われました。お勤めの後、今年度の法座皆勤者の表彰を行い、続いて天岸浄圓先生に、お釈迦さまが誕生の時に宣言された「天上天下唯我独尊 三界皆苦我当安之」のお言葉を通して、仏さまとはどういうお方か、仏教とはどういう教えか、というお話しを聴かせていただきました。

なお本年度の皆勤者は次の方々でした。(敬称略)

田坂幸祐・谷口幸平・野間幸子・松本朱美・眞鍋磨千子・森賀英幸・森賀美代子・森本隆雄・森本仁・森延子・守谷眞澄・安永省一・安永敏枝

## 『住職継職法要』5月21日挙行！

平成25年度の光明寺総代会(11月28日開催)において、現住職(光明寺22代住職・釋一宏)より、その法灯を副住職(釋一心)に継承することを報告しました。また、それに伴う『住職継職法要』を明年5月21日に挙行することが決まりました。詳細は追ってご案内いたします。

趣味の広場



俳句を楽しむ(六十三)

森本隆を

暦の上ではもう冬に入りました。これを書いている十一月の中頃はまだ寒いという訳でもなく晩秋の気配も濃いのですが、さすがに朝夕の冷えた空気に身の引き締まる感じがし、郊外の景色も冬めいて見えます。この「光明寺だより」が皆さんの手元に届くころにはもう一段と冬の気配が濃くなっていることと思います。今回は、初冬歳末の時期の季語や俳句作品に少し触れてみようと思います。冬は山野の草木は枯れたり落葉したり、田畑ではわずかな冬野菜が見られるだけになります。勿論、庭にも野にも冬の花はとてまもなく、この時期の俳句の特徴は、季語としては他の季節にくらべ植物が少なく、年末年始の忙しさを反映して人事や生活、または心情や感慨を詠んだ句が多くなる傾向があります。例えば、

報恩の文字を身近かに年の暮 伊藤 敬子  
数へ日の一と日は己がため残す 高橋 悦男  
年用意霽あたたかき日なりけり  
冬に入る瀬音水音奢りなし 青木 重行  
四句とも作者は現在活躍中の結社主宰、ひと

り久保田万太郎のみ故人ですが日本の文人俳句の詠み手では第一人者です。前の二句は年末の自分の心情を素直に詠んでいますね。「今年も一年、人々の温情のおかげで無事に過すことが出来た」、「年末は誠に多忙で、せめて一日は自分のためのいちにちに」と、日常を詠んでそれぞれ事実即して実感もこもっていてわかり易い句です。後の二句はともに初冬の自然、具体的には「まったく物静かで、風の無い日は特に冬モヤがかかりまだ寒さもさほど感じない。耳をすませば小川のせせらぎの音が聞こえる」と、静かで暖かい日に恵まれた心情を詠んだ名句です。

では、この冬の初めの時期に、少ない花を見つけて詠んだ句をあげてみます。  
山茶花のべにのうすさの近江かな 伊藤敬子

人住むを大地といへり石路の花 神尾久美子

日だまりは犬の毛溜り枇杷の花 中原道夫

この三句の作者も現代俳人の代表的な人たちです。とりあげられた「さざんか」、「つわぶき」、「びわ」と、どの花も十月〜十二月に咲く初冬の花の代表的な季語ですが、実に地味でいつの間にか咲いていて人々に冬の到来を告げる、この時期にぴったりな花です。

そのほか冬の初めの花の例句として、  
裏庭は軍鶏の囀り花八つ手 吉田舟一郎  
桜の花のこぼるる幾夜かな 稲垣 晩童

冬菊や蕪村の墓に飴一つ 松本 進  
城山に間道のあり冬スミレ 佐藤八百子

などを「歳時記」から拾ってみました。

以上のように本職の俳人も季節的に冬の花を詠んだ句は圧倒的に少ないのですが、私どもが毎月一回俳句を楽しんでいる句会、「西条俳句倶楽部」のメンバーも多聞にもれず冬は花の句が極端に少なく、過去の作品の中から良い句を探してもなかなか有りません。

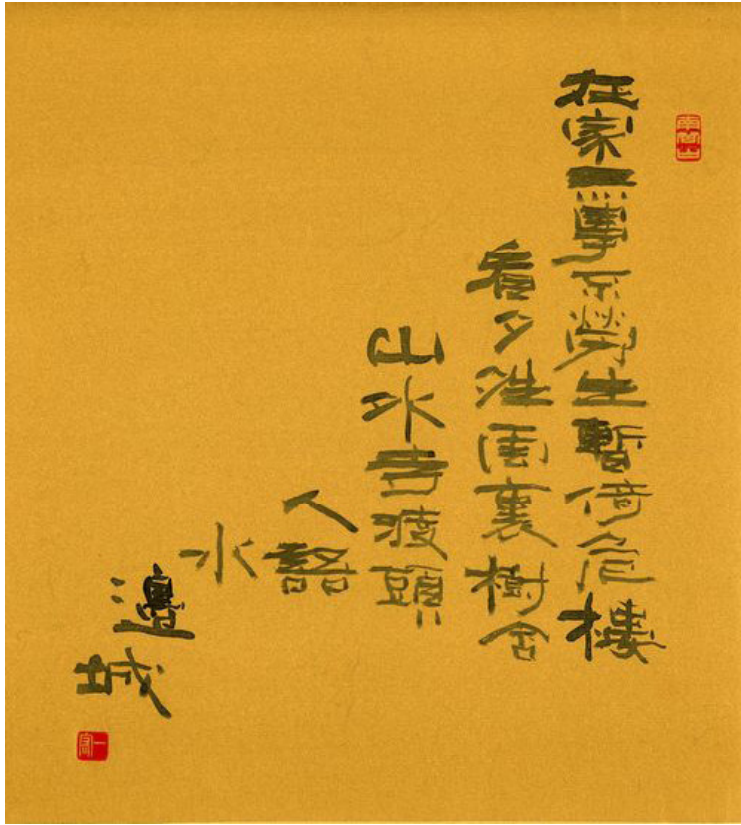
岩室に鬼の伝承唐椿 あきふみ  
海を見に山茶花の径曲りけり くにお  
斑入り石路次々ふえて妻機嫌 あつし

この三句あたりがましな方ででしょうか。「唐椿」はツバキ科の侘助のことです。これも一重半開きの小さい目立たない花です。

最近、西洋系の色鮮やかな花をよく見る様になりましたが名も判らず、風情に書ける俳句には詠みづらいのです。この辺が俳句のちよっと難しい点かもしれません。



# 位職書作品



【色紙】

【字句】

在家無事不勞生  
暫倚危樓看夕晴  
雲裏樹含山外寺  
渡頭人語水邊城

【意味】

家においても手持無沙汰で、高殿に上って夕暮れの景色を眺める。雲のかかった山の樹の間に寺が見え、渡し場の近くの水辺には城がある

## BOOK 本

### 『拝読 浄土真宗のみ教え』



出版社 本願寺出版  
編集 「拝読浄土真宗のみ教え」編集委員会  
定価 315円(税込)

本書は親鸞聖人七百五十回大遠忌にあたって発刊されたものです。

親鸞聖人のお言葉を通して、親しみやすい表現で浄土真宗の教えを理解できるように構成されています。以下の十五の項目に分類されています。

- ① 人生そのものの問い
- ② 凡夫
- ③ 真実の教え
- ④ 限りなき光と寿の仏
- ⑤ 他力本願
- ⑥ 如来のよび声
- ⑦ 聞くことは信心なり
- ⑧ 今ここでの救い
- ⑨ 愚者のよろこび
- ⑩ 報恩の念仏
- ⑪ 浄土への人生
- ⑫ 自在の救い
- ⑬ 光の浄土
- ⑭ 美しき西方浄土
- ⑮ かならず再び会う。

巻末には拝読次第が掲載されており、日常のおつとめの際に拝読して、み教えを味わっていただけるようになっていきます。

### 除夜の鐘&元旦会

12月31日  
午後11時45分

★除夜の鐘終わり次第本堂にて  
元旦会を行います

### 平成26年度年忌早見表

「年忌繰り出し」を該当者に配布していますが、  
手作業のため見落とすことがあります。  
必ず、ご自宅の過去帳で確認して下さい。

回忌	死亡の年号
1周忌	平成25年
3回忌	平成24年
7回忌	平成20年
13回忌	平成14年
17回忌	平成10年
25回忌	平成 2年
33回忌	昭和57年
50回忌	昭和40年
66回忌	昭和24年
100回忌	大正 4年
150回忌	慶応 1年
200回忌	文化12年
250回忌	明和 2年
300回忌	正徳 5年

### 光明寺のホームページ

西条光明寺

または

南岳山光明寺

検索



### 言葉のプレゼント

光に遭うと  
光を持たない星まで  
輝きを放つ

東井義雄

「光明寺だより」をご家族の皆さんで  
お読みください

次回発行予定…2月上旬

★予定より一日遅れて9月19日午前  
2時35分、副住職夫妻の第一子が誕生  
しました。女の子です。「心こころ」と  
命名しました。

★9月28日、季平博昭先生をお迎え  
して秋の彼岸会法座が開催されまし  
た。30名の参拝がありました。

(※関連記事4ページ)

★10月28日(月)第24回仏教定期講  
演会が光明寺本堂で開催されまし  
た。

(※関連記事4ページ)

★11月28日(木)報恩講・総代会が  
開かれました。50名の参拝がありま  
した。

(※関連記事5ページ)

★来年度の中学3年生用の道徳の教  
科書『キラリ道徳』(正進社発行)に、  
安藤忠雄先生のご掲載されま  
す。併せて、光明寺の写真も掲載さ  
れることになりました。

